

「名人・達人観光ガイドの会」ガイド紹介

①氏名 ②現役時代の仕事または今現在の仕事 ③出身地 ④現住所 ⑤趣味、特技 ⑥ガイドになったきっかけは？ ⑦今までガイドをして嬉しかったこと、良かったと思ったこと ⑧ガイドをする時にいつも心がけていること

- 1 ①原島 俊二 ②飲食業・宿泊業(現役です) ③奥多摩町棚沢 380 ④同左 ⑤低山歩き ⑥4期生ガイド応募者が少なかったので応募しました ⑦多くの方と知り合えたこと ⑧全員無事に帰ってきたとき
- 2 ①増澤 強 ②公務員 ③長岡市 ④奥多摩町 ⑤山菜・キノコ採取 ⑥趣味が生かせるチャンスと思ったから ⑦様々な出会い ⑧奥多摩の魅力(自然・歴史)を伝えること
- 3 ①緒方 利幸 ②酒類製造・販売と福祉介護 ③佐賀市 ④川崎市高津区 ⑤ヤマケイ文庫の読書と地図読み ⑥単独登山が怖くなったから ⑦“奥多摩山里歩き絵図”を完歩できたこと ⑧一生(一所)懸命案内すること

青梅線よもやま話

青梅線は元々石灰石輸送として発展し、明治27(1894)年11月立川～青梅～日向和田駅間開業当時は蒸気機関車で輸送。当初、火災と騒音で人畜被害が持ち上がり、中々進まなかった。当時の福生村の酒造業(田村半次郎)・羽村の養蚕業(指田茂十郎) 沢井村の材木業(小沢太平)三名は石灰採掘業と輸送計画で鉄道建設をしようと考えた。大正9(1920)年1月日向和田～二俣尾開業。大正12(1923)年4月電化。昭和4(1929)年9月二俣尾～御嶽間開通。同年青梅電気鉄道(株)に社名変更。昭和9(1934)年御嶽登山鉄道が開業。参拝と登山客が徐々に増えて観光化して来た。奥多摩電気鉄道(株)が御嶽～氷川(現奥多摩駅)間を昭和19(1944)年に開業、国有化。

昭和28(1953)年建設中の小河内ダム建設に当たり、氷川駅～小河内ダム間に支線を造り砂利やセメント輸送に、昭和32(1957)年11月小河内ダムが出来上がると共に、廃線となった。

昭和62(1987)年4月国鉄からJRに移

行。民間会社になった線区別の営業指数を今でも覚えている。青梅線は100円稼ぐのに137円掛かる赤字路線であった。当時の貨物列車(石灰石)輸送は、日本でも指折りの中に入り、首を傾げるような事を今でも覚えている。その後、通勤、通学のお客が増えると共に登山客も増え、快速電車や都心との直通電車も。

平成の後半にはアドベンチャーラインと称する誘客を全面にキャンペーンを実施。鉄道開業150年が経ち、この契機に青梅線は沿線まると株式会社を設立。地域資源を活性化して、鳩ノ巣駅を拠点に古民家ホテルの事業を予定、現在に至る。

ガイド 宇津木 隆

観光協会事務局より

昨年10月、当協会では地域限定旅行業の登録を行いました。

これまでは、奥多摩友の会会員限定でイベントを実施していましたが、これからはより幅広く奥多摩の魅力を知って頂くためのイベントを実施することができるようになりました。

今年度決定しているのは、登山とバスを組み合わせたツアーになります。公共交通機関で行くのが大変な奈良倉山(5月29日)と鷹ノ巣山(6月6日)の2箇所。どちらも富士山の眺望がとてもよい山です。奥多摩友の会の会員様もぜひご応募ください。

主要な通行止め

- ・海沢 ネジレノ滝～大滝 復旧未定
- ・鷹ノ巣山 稲村岩尾根(日原ルート) 復旧未定
- ・麦山浮橋、留浦浮橋 復旧未定

※通行止め解除

- ・鳩ノ巣溪谷遊歩道 1月31日～

次号発行予定：2023年7月15日

発行 一般社団法人 奥多摩観光協会
住所 〒198-0212 奥多摩町氷川210
電話 0428-83-2152 FAX 0428-83-2789
編集 名人・達人観光ガイドの会

来さっせえ奥多摩のバックナンバーをオンラインでご覧いただけます。



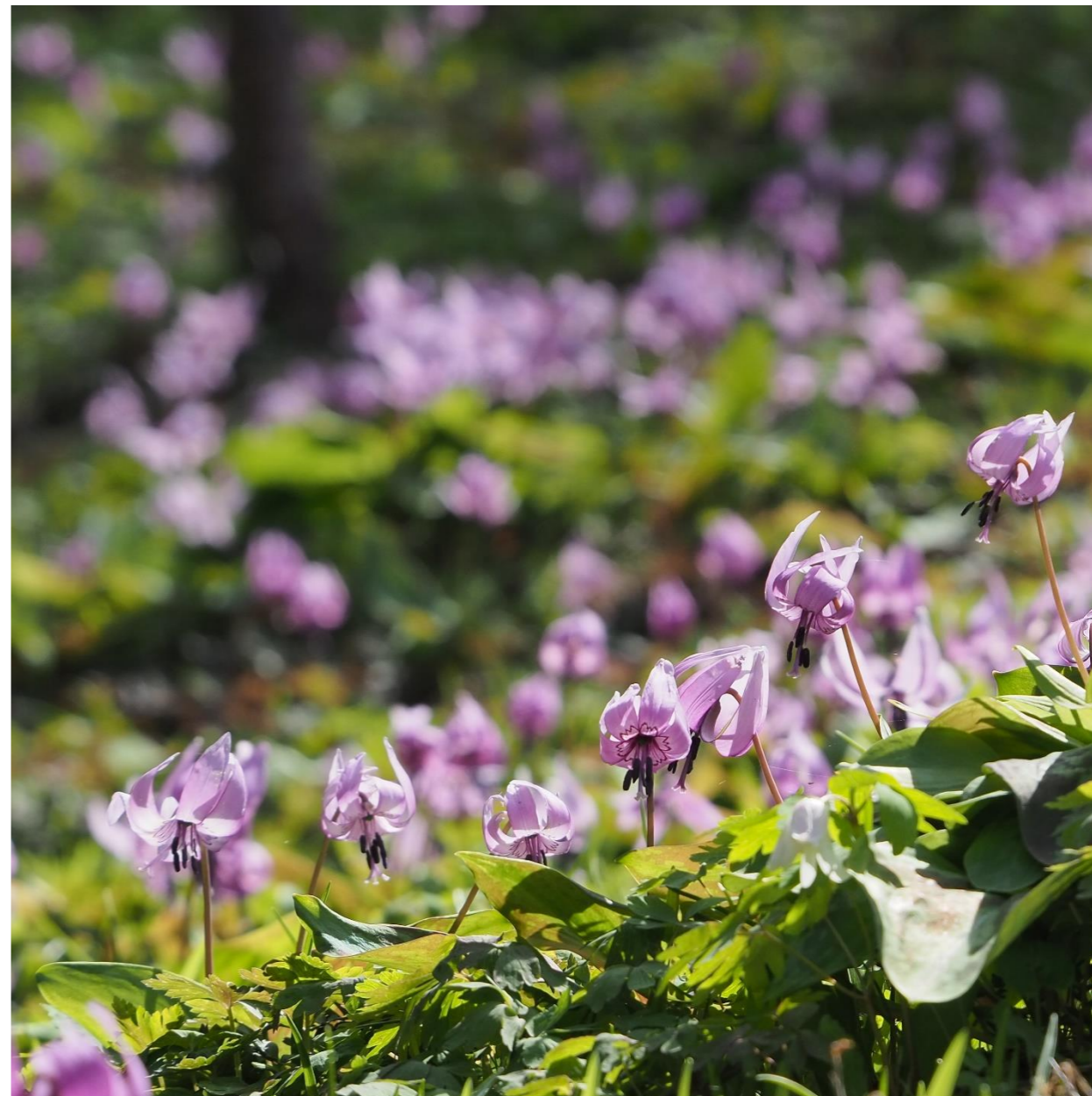
奥多摩

《第69号》

令和5(2023)年

4月15日発行

一般社団法人 奥多摩観光協会



海沢カタクリ山 2022.4.6

カタクリ

毎年カタクリを見に行きたくなるのはなぜだろう。

冴えて引き締まった茎のてっぺんに俯きかげんに開いた薄紫の花。花びらと雄しべは6個で、長短が3本ずつある。葯(雄しべの先の花粉の入った袋)は濃い紫色。花びらと呼応する色合いがなんとも美しい。スプリング・エフェメラルと呼ばれる春植物。エフェメラルとは「短命な」という意味である。日本人の琴線に触れる「はかなさ」が漂う花である。西日本や太平洋側では希少植物となっているが保護活動は盛んに行われている。

奥多摩のカタクリ見頃：海沢カタクリ山 3月下旬～4月上旬、御前山 4月中旬～下旬

行って来たあよ

下見編

1月17日(火)

No.31 山里歩き「大加沢林道を歩く」

奥多摩駅前で軽い準備体操を行い、愛宕山方面に向かう。本来なら愛宕神社から大加沢林道へ入るのですが、下見の時Hリーダーに188段の階段ですと言うと即右に行こうという回答でした。遠まわりですが平坦な道を進むと登計集落に出ます。天聖神社が正面に見えるはずですが何もありません、廃社となりました。さらに林道を行くと広場があります。コロナ禍で3年も花火大会は中止になっておりますが、8月第2土曜日にこの場所でスターマインがセットされます。真っすぐ大加沢林道を進む。下見ではコガラ、シジュウカラの群れに出会いました。水道タンクが右側にあり左下に子安様(水子地蔵)中には左右に絵馬、中央に赤ん坊の前掛けが数十枚重なってありました。大加沢のこの辺は水が少なく上流には水があり奥多摩海沢ふれあい農園のワサビ田もあります。今日のワサビ丼もこの山葵を使います。早めに農園に到着し、展示してある御神楽のお面や縄文土器など見学する。昼食はワサビ丼、豚汁、焼き芋、パンはゆずバターでゆっくりと頂きました。

農園の目の前にある岩山かみしの神路山を登ります。8月第1日曜日しもなかくみが下中組獅子連の祭典が行われます。最初に宮参り、そして3匹獅子と花笠・太鼓等が6時にこの神路山に登ります。頂上祠前は展望が良く、先ほど通った貯水池、西には奥多摩中学校、北東側に奥多摩霊園が一望できます。帰りは気を付けて向雲寺に降ります。数馬峡遊歩道を通り、白丸湖を眺め、白丸駅で解散しました。

参加者の声：山里歩きで海沢は何度も来ていますが神路山を登ったのは初めてで大変満足でした。

ガイド 大澤 新次

2月10日(金)

No.32 棒ノ折山 969m 関東平野大展望

棒ノ折山の下見をしてきました。棒ノ折山は何度も登っている山ですが大丹波からアクセスするのは初めてでした。

いつもは埼玉の飯能、名栗湖がある有間ダムから、または御嶽駅の丁度北に位置する高水三山を経由して登ることが多いです。

大丹波からのコースは JR 青梅線の川井駅からバスで登山口近くまで行くことができます。

登山口からはワサビ田のある沢沿いのコースで奥多摩の特産であるワサビを眺めながら歩けるなんて、なんだか楽しく新鮮な驚きでした。

登山口から棒ノ折山の山頂までは1時間30分ととても短いのでとにかく眺めの良い場所に短時間で行きたいという方にはうってつけのコースだと感じました。

棒ノ折山といえば山頂にある桜が有名ですがそれは春のゴールデンウィーク頃のお話。

空気が澄んでいる冬は晴れていれば遠くの山々が良く見えます。

奥武蔵、秩父、雪をまぶした日光や武尊山、そして谷川岳まで見えます。

1度登ったことがある山でも2度3度登って、なお新たな発見があるものです。

青梅、奥多摩の山から谷川岳が見えるなんて登山を始めた頃には思いもよらなかったですからね。

今回はガイドの下見でしたが、またプライベートでも行きたいコースだと思いました。

ガイド 大友 将史



ワサビ田



棒ノ折山山頂

季節のオススメのイベント

No.5 5月19日(金)開催

新緑のいこいの路

「いこいの路」とは奥多摩湖右岸を慰霊塔から「山のふるさと村」まで巡る12キロのハイキングコースです。冬期間は閉鎖されるが4月中旬には解禁になる。

もともとダムの建設の為に道であったが、最近では中高年に人気の高いコースです。水没した原・河内・川野・留浦等の集落に想いを馳せながらのハイキングはきっと参加者の心をとりこにすることでしょう。

水久保沢・天神沢・蛇沢を経てまもなくトイレが設置された中間地点に到着。

対岸は鷹ノ巣山・倉戸山の登山口でもあり、明治・大正・昭和の初期までは多くの文人墨客が訪れたといわれている熱海。現在も温泉神社・鶴の湯・女の湯など往時の地名が数多く残っている。中間地点から20分で大むそ沢。さらに、さなぎ沢を過ぎると10キロ地点に到着。「山のふるさと村」まであと2キロ。

通称「山ふる」には「ビジターセンター」があるので時間に余裕があれば情報を得るのも一つの方法です。

だが、ここで終わったわけではない、終点は麦山橋(浮橋)を渡り、鎌倉時代弘安7(1284)年、「木像蔵王権現」が修復されたと言われている小河内神社。この神社では今でも、9月には境内で奥多摩の民俗芸能・鹿島踊り・川野の獅子舞などが継承され賑わいを見せている。

お祭りの他に娯楽がない時代に大いに盛り上げたそうです。

また、若い男女には出会いの場でもあり縁結びの場でもあった。バス停は来た道に戻り国道沿い。トンネルの手前でカーブもあり国道を渡る際は十分気を付けること。

萌えるような新緑の中「いこいの路」を一緒に歩いてみませんか。



奥多摩湖いこいの路入口



奥多摩湖

ガイド 平塚 翼次

No.8 6月22日(木)開催

六ツ石山 1478m

今回のコースは水根集落から六ツ石山に登り、石尾根を経由して奥多摩駅まで下るコースです。当日は梅雨に入っていることでしょう。うっすらと霧に霞む花々や木々がロマンチックに感じたら幸いです。

バスは奥多摩湖の一つ手前の水根で下車、水根集落へ向かう車道を進みます。やがて車道から分かれて杉林の山道に入ります。道は急になり、一汗かくと水根産土神社に着きます。山の安全と土地の平安を司る神様です。杉林がナラの林に代わり細い尾根が出てくると足下に見過ぎてしまいそうなきさな祠が出てきます。山の神です。いつもお酒と賽銭が置いてあります。奥多摩の人の山に対する畏敬の念を感じます。さらに登りを一時間余り続けると明るく開けた静かなトウノクボに着きます。ここは境から延びるハンノキ尾根と水根から来た尾根がぶつかる鞍部の所です。疲れが取れたら防火帯の登りにかかりましょう。傾斜地はウバユリ、オヤマボクチ等大柄な花が咲き一面が花園に成ります。二つのピークを越えると六ツ石山の頂上です。西に鷹ノ巣山、高丸山、石尾根の名だたる山々が、そして天気の良い日は南アルプスの白根三山、甲斐駒ヶ岳まで見渡せます。富士山は大菩薩、三頭山を前衛にして南に構えています。「六ツ石山が俺は石尾根の東の端っこにあるが景色は素晴らしいぞー」と叫んでいるようです。

さあ景色を堪能したら奥多摩駅に向かいましょう。狩倉山を左に見て三ノ木戸山の入口まで1時間程で着きます。北面の道を下ると薄暗い足場の悪い杉林が待っています。大雨で深く陥没している所があります。ゆっくり歩いてください。絹笠集落のあとの石垣が出て来れば石尾根の出口はもう少し、車道が見えたら終わりです。奥多摩駅まで後1時間。農指集落に近づくと車道を離れ羽黒三田神社経由の近道に入ります。ここを過ぎるともう安心。奥多摩駅はもう直ぐです。



ガイド 長谷川 貴